

世界有数の

地震国日本

～プレートの境界が集中～

世界有数の地震国である日本は、昔から地震による多くの被害を受けてきました。近年では、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、福岡県西方沖地震、新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震などの大きな地震がありました。そして今回、戦後最大の被害となる東日本大震災が発生しました。

国内では、震度4以上の地震が毎年30回程度発生しています。特に東日本大震災では、本震に続いて大きな余震が頻発しました。



●地震の揺れ（10段階）と想定される被害

震度0	揺れを感じない。被害なし。	震度5弱	棚にある食器類、書棚の本が落ちることがあり、窓ガラスが割れて落ちることもある。電柱で揺れが判別できる。
震度1	屋内で静かにしている人の中には、わずかに揺れを感じる人がいる程度。	震度5強	ものにつかまらなると歩行困難、固定していない家具が倒れることがあり、車の運転も困難。
震度2	屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じ、吊り下がった電灯などがわずかに揺れる。	震度6弱	立っていることが困難、耐震性の低い木造家屋で倒壊するものがある。
震度3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じ、棚にある食器類が音を立てることがある。電線が少し揺れる。	震度6強	はわないと動けない。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものも多数。耐震性の高い木造家屋でも壁に亀裂が。
震度4	ほとんどの人が驚き、つり下げた物などは大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。車の運転中、揺れに気づく人も。	震度7	揺れに翻弄され、ほとんどの家具が移動し、飛ぶものもある。耐震性の高い木造住宅でも、まれに傾くことも。

気を付けて！～屋外状況別～

■歩いているとき

- 瓦看板などの落下物（手荷物などで頭を守る）
- ブロック塀、石塀など（倒壊の可能性）
- 切れて垂れ下がった電線

■海岸やがけ付近にいるとき

- 日頃から安全な場所を確認しておき、すみやかに避難

■橋の上にいるとき

- 手すりや柵にしっかりつかまる（地面より揺れる場合がある）
- 揺れがおさまったらすぐ橋からはなれる

■自動車に乗っているとき

- ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし道路左側に停車
- 停車後、エンジンを切り、カーラジオなどで情報を確認
- 車を離れるときは、窓を閉め、キーをつけたままドアロックもしない

地震時の行動

～日頃からイメージを～

～災害発生から3日間は、外からの応援は期待できません～



地震発生



- 落ち着いて、自分の身を守る（机の下などにもぐる。倒れてくる家屋や落下物に注意。）
- 火の始末はすばやく（コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。無理はしない。）
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。

1～2分



- 火元を確認、出火していたら初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴を履く（ガラスの破片から足を守る。）
- 非常持出品を手近に用意する。



3分



- 隣近所の安全を確認（特に一人暮らし高齢者など災害時要援護者がいる世帯には積極的に声をかけ、安否を確認する。火が出ていたら大声で知らせ、協力して消火する。）
- 余震に注意

5分



- ラジオなどで情報を確認（間違った情報に惑わされないように。）
- 電話はなるべく使わない。
- 家屋倒壊などの恐れがあれば避難する。（ブロック塀やガラスに注意。車は使用しないこと※山岳部などの一部地域を除く。）



～10分



- 子供を迎えに（保育所・園、幼稚園や小・中学校に子供を迎えに行く。自宅を離れるときには、行き先を書いたメモを目立つ場所に残す。）
- ガスの元栓を確認し、電気のブレーカーを切る。出火防止。

～数時間



- 消火・救助活動（近所で協力して消火や救出を。あわせて消防署等へ通報。）

～家に帰れない、ライフラインが使えない、余震が不安などの場合～

～3日

- 生活必需品は備蓄でまかなう
- 災害情報、被害情報の収集
- 壊れた家には入らないこと
- 引き続き余震に警戒する

小中学校などの指定生活避難所へ

